



地味チョウシリーズ⑧



今回もセセリです。地味チョウシリーズは、当面ジャノメチョウ亜科とセセリチョウ科に絞って連載予定です。第7弾は蝶屋の中でもほとんど、というか全く相手にされていない普通種コチャバネセセリを取り上げます。

全体がこげ茶色、白い点が少々配置されていますが、ほんとに地味なチョウ。ぱっと見オオチャバネやイチモンジセセリに似ていますが、分類上ではそれぞれ別で、コチャの仲間は日本に1属1種。またコチャ君は日本とサハリンにしかないという孤独な種のようなのです。食草であるササ天国の日本オリジナルなチョウと言えそうで、あまり邪陰に扱わない方がいいのではと思います。では。



成虫いろいろ①吸蜜

コチャ君は花が好きです。好き嫌いせず様々な花で吸蜜しています。6月に入ると出始めますが、どこにもごく普通にいますのでチョウ屋さんで採集する人は稀でしょう。それでもよく見ると新鮮な個体はそれなりに整ったスタイルで翅の裏の筋と白い縁毛は美しいと思います。オスとメスの区別はちょっと難しいのですが、メスの翅の裏が黄色っぽくより美しく見えます。



ムラサキツメクサで吸蜜する♂ 2016・7・17 旭川市



イケマで吸蜜する集団 2013・7・20 伊達市



アザミの花で吸蜜する♀ 2017・7・18 富良野

成虫いろいろ②吸水

コチャ君が存在感を発揮するのはやはり吸水集団でしょう。林道の水溜りや獣糞に群がっている姿をよく見かけますね。とにかくよく吸水します。もちろん吸い戻しも盛んにやっています。下の写真は我が家の窓にへばりついて吸い戻しをやっている図です。ミネラルの補給と言われていますが、そんな成分がガラスに付いているのでしょうか？



集団吸水 2025・6・28 東川町



獣糞を吸う 2019・7・4 共和町



集団吸水（同上）



窓ガラスで吸い戻し 2017・7・4 富良野市

産卵その他

幼虫の巣はあれだけたくさん見つかるのに、コチャの産卵はなかなかお目にかかれない。「完本」作りのときにも結局産卵の写真は、右に示した古いポジの写真を使うしかなかった。その後も何回かは見て入るが、写真に収めるのは結構難しい。下の写真はササの葉の先端に産み付けているもので右の写真には産み付けられた卵がポチっと見えると思います。結構いろんなところに産み付けます。右下の写真はカラタカの雄に求愛されている♀の写真です。（おまけ）

ササの葉の裏に産卵 2000・7・12 富良野市



ササの葉の先端部に産卵 2018・7・11 芦別市



カラタカに求愛を受ける 2024・6・28 日高町



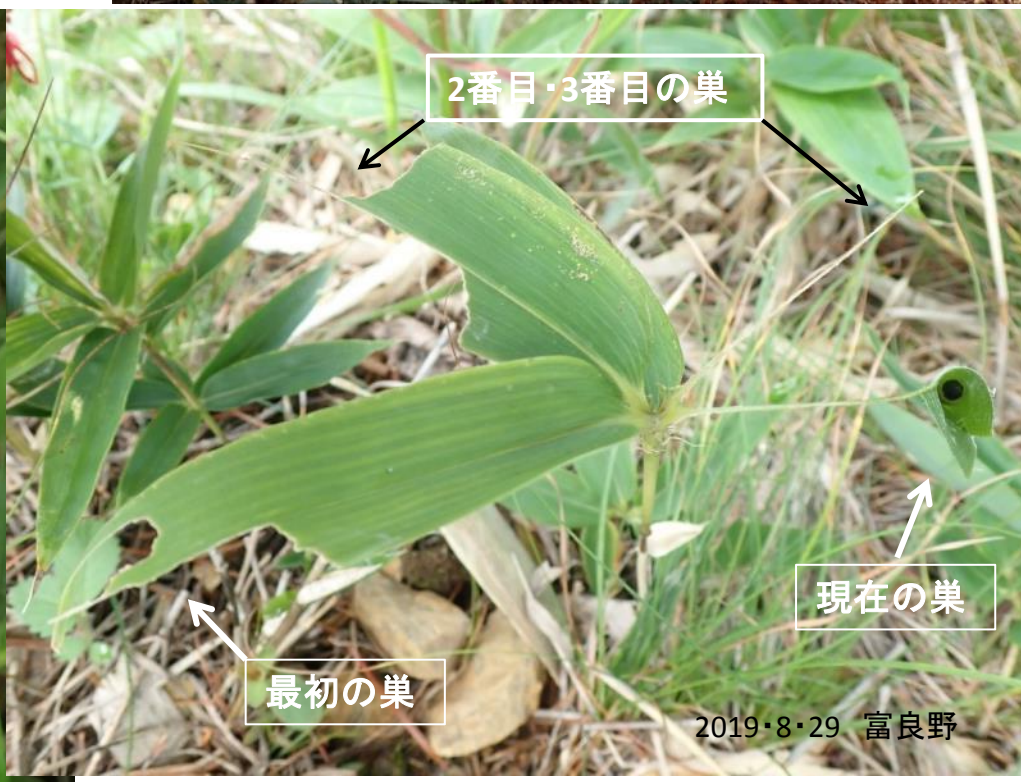
幼生期その①最初の巣作り

さて、イモムシウオッチャーとしてはコチャ君はなかなか面白い対象です。新刊の「生活史・12か月」図鑑にも書きましたが、夏から秋・冬にかけての巣作り～越冬の観察はまるで周年行事のようになっています。ではしばしお付き合いのほどお願いします。観察は食草のササがあればだいたいどこでも観察できます。葉先を折りたたんだ巣が見つかるはずです。まずはその巣造りの始まりから紹介します。バイブル「生態図鑑」に信田さんの詳しい記述がありますが、その図の通り、最初の巣はササの葉の先端の「ねじれ」をうまく利用して作られます。写真はすべて2015年7月19日に富良野市内の同一場所で観察した写真です。孵化した幼虫は先端部に移動し①よじれた部分の隙間に入り込み糸を掛け始めます②、巣ができるとその周囲から葉を食べ始めます③～⑥。⑥では中脈が残る独特のスタイルになっています。



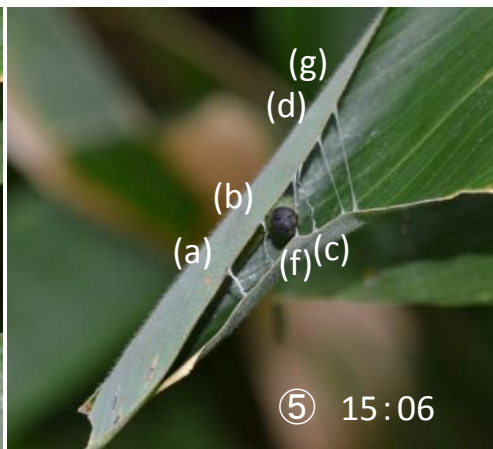
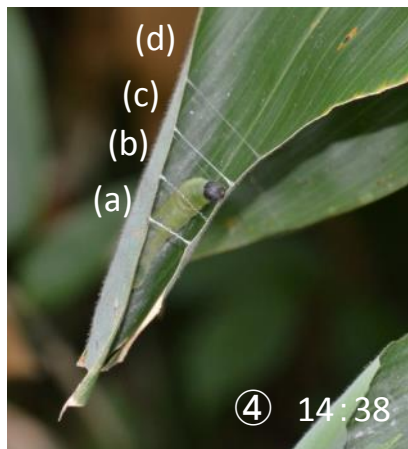
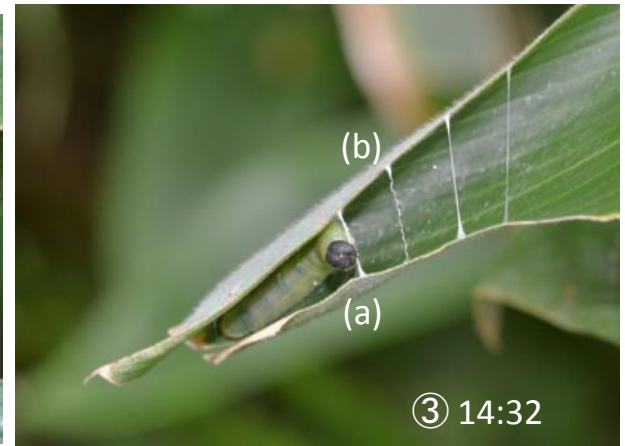
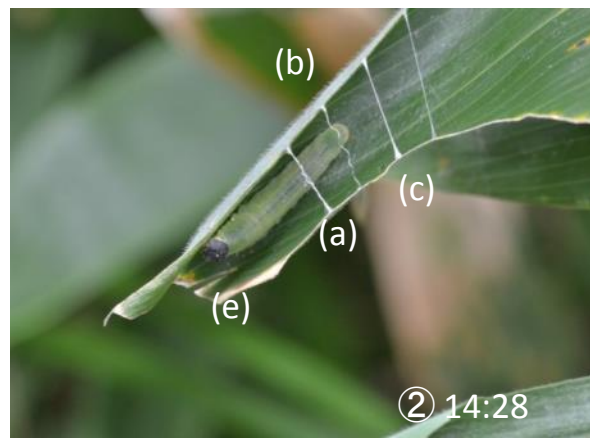
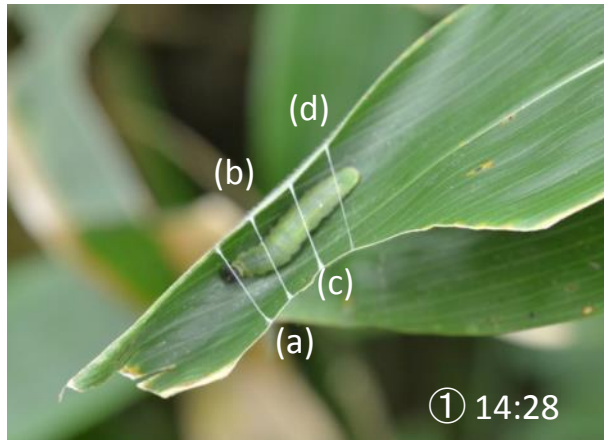
幼生期②巣の作り替え

コチャの巣探しは、7月から雪虫が舞い始める10月まで楽しむことができます。右の写真は私のフィールドの1つ鳥沼公園です。遊歩道沿いに、どうぞ探してみてと言っているように笹原が広がっています。つついササの葉の先っぽを気にしてしまいます。一番見つかりやすいのは葉の先端に三角に折りたたまれた巣がぶら下がっているものです（写真①）②のタイプは作りたての巣です。幼虫は周辺の葉を食べつくすと同じ株の別の葉に移動して新しいつをつくるので、ササの株に昔の巣の跡が残されていきます。（写真③）そしてラストの越冬巣をつくるまでだいたい4～5枚の葉を使い巣の作り替えが行われます。巣は他のセセリチョウと同じですが口からはく糸を何本も寄りあわせたもので何箇所か結び付けられます。それは次頁で。



幼生期その③巣の糸掛け

マイフィールド鳥沼での観察その2。終齢の巣作りを紹介します。2019年8月14日の14時28分から16時までの巣造りの様子です。クロヒカゲの成虫も飛んでいるいつもの遊歩道のササ原です。①の巣を見つけました。糸が4本 (a~d) です。②で先端部に糸 (e) を掛け始めます。③糸 (a) を補強しています。④新しい糸 (f) を掛け始めました。(ちょっと空白時間) ⑤では基部にもう1本 (g) かけてありました。⑥でさらにもう1本 (h) かけ始めています。(b) (c) など古い糸は縮んでいるのがわかります。(少し空白) ⑦でさらにもう1本 (i) かけて、これで完成したのか、しばらく出て来ないので撮影を終了しました。



幼生期④巣の構造

巣づくり 2015・8・22 札幌(兄拓行)



コチャの巣造りの続きです。左の写真は兄の写真ですが、ササの葉の先端部から糸を掛けて折りたたんでいきますが、何回も往復して糸を掛けるうちにだんだん葉の袋が出来上がっていきます。しかしよく考えるとどうして硬いササの葉が折りたたまれていくのでしょうか？裁縫ならば通した糸を引っ張ればいいのですが…。①束ねた糸がその後縮まるのでしょうか。②往復する時に糸がゴムのよう伸びて引っ張るのでしょうか。前ページの写真を見ると先に掛けた糸が緩んでいるので①ではなく②の作用が強いように思えます。

さて巣の内部はどうなっているのでしょうか。左の巣を開けてみます。葉の表面に吐糸で薄い膜と糸束が造られているのがわかります。それと外側の糸束はわかりますが、狭くなった内部にも何箇所か糸束で補強しているのがわかります。白くまるくなった膜は糸束の付着点です。結構時間をかけて巣をつくっているのがわかりました。



2018・9・21 富良野

幼生期⑤越冬巣

コチャの越冬巣については、バイブル「生態図鑑」などで、知ってはいるけど実際は見たことが無い状態が続いていました。初めて見つけたのは標茶高校勤務時代の2008年でした。越冬明けの4月26日のことです。入学したての1年生に「宿泊研修」という行事があり、環境教育に力を入れる標茶高校では、温泉地の川湯を起点にいろいろな自然体験研修が実施されます。私は教頭として引率団を引いてたのですが1つプログラムの担当を請け負ってくださいと言われ、川湯の足湯に棲む「オンセンバエ」を発見させるプログラムの担当でした。このハエの幼虫は熱い温泉の中で育っています。このハエの観察も実に面白いものがありましたが（下写真）、次のグループが来る待ち時間に、私はいつものようにチョウの幼虫探しをして、そこで発見したのでした。残念ながら巣の中身は寄生されていましたが、私も貴重な自然体験学習ができたのでした。



越冬巣を見つけたササの食痕 2008・4・26 川湯



初めて見つけた越冬巣（同上）

♀に翅を広げてプロポーズする♂
(ハエの種名は不明)



幼生期⑥越冬巣探し

コチャの越冬巣探しは2016年、「完本」作りを契機にしっかり取り組み始めました。たまたま旭川に通う仕事があったので帰り道の神楽岡公園で探してみました（右写真）。結局8個の越冬巣を見つけることができ、なんとなく探し方もわかった気がしました。まずコチャの巣の切り落としがあるササの下周辺（だいたい半径1mくらい）を探します。小型の熊手で表面の葉を取り除きます。すると独特の形をした越冬巣が出てきます。正確に言うと出てくることがある。それも7～8回に1回くらいです。厚みのある巣をすこし圧迫してみても幼虫が入っているか確認しますが、8個のうち3個は空だったり寄生蜂にやられていました。中味入りの見つかった5個の巣を並べて写真にしてみました。

コチャの巣を探した神楽岡公園のササ原



幼生期⑦続・越冬巣

コチャの越冬巣探しのその後です。2017年もマイフィールドの鳥沼公園や神楽岡公園で越冬巣を見つけました。そこでその後の観察をすべく巣の場所をマークしておきました。神楽岡に5か所鳥沼に4か所付けておきました。翌年に雪が解けて越冬巣を探してみた所、神楽岡は何者かによって、串が抜けていて、1か所あったところにも巣が見当たらず全滅。それでも鳥沼公園で2か所から冬を越した巣を見つけ出しました。3月30日に見つけたものはまだ幼虫でした。持ち帰って庭の植木鉢の上に置いておくと4月23日にはもう蛹になっていました。もう翅の模様が透けて見えています。発生は普通6月からなのでちょっとフライングしてしまったようです。

初夏にたくさん発生してくるコチャ君も冬越しは一苦労しているようです。



コチャの巣が見つかる鳥沼公園



マークした巣 2017 神楽岡



越冬後の巣 2018 3・30 鳥沼



2018・4・23 富良野鳥沼



越冬について おまけ

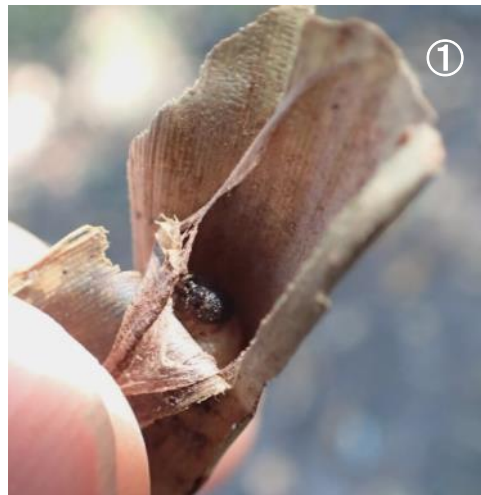
コチャの越冬巣探しのおまけです。おまけその1は切り落とさなかった越冬巣です。右の写真です。11月に安平町で見つけました。中の幼虫は健在でした。切り落とそうとしているうちに寒くなってそのまま眠りに入ったのでしょうか。下の①～③の写真たちは2025年の一番新しい巣たちです。①の幼虫は元気そうです。②は何者かに連れ去られています。③は何者かによって食われてしまっています。今年は野外でいつころ蛹化するのか確認したいと思っています。



2016・11・1 安平町



2025・10・17 富良野鳥沼



おわり

